

2020年度教職員アンケート結果報告

分類	評価項目	設問項目	2020	2019	昨年対比	結果	今後の課題・改善策
学校運営	教育方針 教務	教育理念が教職員・生徒・保護者など学校関係者に浸透している。	4.0	3.8	0.2	昨年と比較し向上する結果となった。客観的な評価に基づき、教育理念・教育方針が浸透する環境が設定されていると考えられる。引き続き教育理念の浸透について取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議、成績判定会議にて教職員における運営状況のディスカッションを実施し、共通理解を図る。 ・教育理念、学校方針に基づく具体的な指導方法を明確化し統一した指導を行う。 ・生徒指導など統一した指導の機会を増やし、教育理念・学校目標の浸透を図る。(HRの回数増等)
		学校方針・教育目標が教職員・生徒・保護者など学校関係者によく浸透している。	4.0	3.8	0.2		
		教職員は、『目指す学校像』に基づき挨拶・礼儀・言葉づかい等の生徒指導に熱心に取り組んでいる	4.1	4.0	0.1		
	教育体制 教職員連携	教職員は『目指す教職員像』を意識して熱心に生徒指導に取り組んでいる	4.3	4.2	0.1	昨年と比較し向上する結果となった。個々に「目指す教職員像」を持ち、生徒と向き合い指導を行っている。また、教職員間での共通理解・情報共有の効果があったと考えられる。引き続き、研修及び会議を有効活用し相互理解、資質を高め、授業アンケート等を反映した指導を実現すべく、教職員が一丸となり生徒指導の更なる向上に向けて取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の精度向上のため実施方法の改善、見直し、具体的な事例共有を行い、教育体制連携の強化を図る。 ・内外の研修を増やすことで教育の質向上を図る。 内部研修:本校教員による成功事例の共有 外部研修:通信制高等学校の生徒層の対応やアンガーマネジメント研修など外部講師を招いて実施(検討)
		教員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	4.2	4.1	0.1		
		風通しの良い組織・職場(学校)風土作りに取り組んでおり、情報が共有されている	4.2	4.0	0.2		
		教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。	4.0	3.8	0.2		
		校内外研修を積極的に活用し、教員の資質向上に努めるとともに、授業アンケート等を通して積極的に課題解決に取り組んでいる	3.9	3.8	0.1		
	広報	積極的に飛鳥未来高校の取り組みを発信している。	4.3	4.5	-0.2	昨年と比較し低下する結果となった。通信制高校の認知も広がり生徒数は年々増加を続けている。今後は飛鳥未来高校の取り組みだけでなく、コロナ禍における教育活動を発信することで、より多くのニーズに向けた広報の改善が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各CPコロナ禍における教育活動 ・各キャンパスの地域貢献活動集約 ・在校生の高等学校に求めるニーズ調査(多様な学びの提供)
			4.1	4.0	0.1		
教育内容	生徒指導	当校は、イベントや学校行事が活発に行われ、地域貢献のボランティア活動や校外学習の機会を提供している	4.0	4.1	-0.1	昨年度と同等(昨年度と比較し微増)の結果となったが生徒の人数増加に伴い、多様な生徒の受け皿として悩みや不安を打ち明け、相談できる環境の充実が必要である。生徒一人ひとりに対する指導における教員の人数配置が適正であるかの見直しも図る必要があり、また、個々の教員のスキルを向上させるための研修プログラム等の検討も必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・各キャンパスの生徒層によってスクールカウンセラー配置を柔軟に行う。 ・多様な生徒を受けいれる高等学校であるため、各キャンパスの状況に合わせた教職員の質向上のための研修の実施。 ・カウンセリング基礎講習の受講を早期化する。
		必要に応じて保護者や地域の関係諸機関と密な連携と協力体制の構築を図り、生徒の問題把握、問題に対する早期対応を心掛け、学校としての信頼を構築している	4.0	4.1	-0.1		
		当校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	4.3	4.2	0.1		
		生徒の悩み相談などの、カウンセリング体制が整っている	4.2	4.1	0.1		
	当校は、日々の授業・生徒指導・各教育プログラムを通じ一人ひとりの個性と可能性を伸ばしている	4.1	4.1	0.0			
	進路指導	当校の教員は、就職や進学等、生徒一人ひとりの進路実現に向けて熱心に対応している	4.3	4.3	0.0	昨年度と同等(昨年度と比較し微増)の結果となった。進路決定率は80%以上の数値となり本校の特色である姉妹校の専門学校や大学と連携した進路指導が根付いていると考えられる。この取り組みについては今後も継続して推進していく。一方、一人ひとりの進路実現に向けてや、進路活動に役立つ様々な企画運営については、今後一層励まなければならない。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒一人ひとりに対して一層の個別指導に時間をかけ、動機付けを行う必要がある。 ・個別面談の実施回数を増加させる。 ・資格取得に向けての講座を企画開設してサポートする。 ・適性な時期に合わせてガイダンスを開講する。 ・グループ姉妹校によるガイダンスの開催。
		姉妹校の専門学校や大学と連携した進路指導が行われている	4.3	4.1	0.2		
		ガイダンス・基調講演・資格取得等、進路活動に役立つ様々な企画、運営に努めている	4.1	4.0	0.1		
		4.2	4.1	0.1			
		4.1	4.1	0.0			
		2020	2019				
		86%	100%				
		【アンケート概要】					
		実施月：2021年2月～3月					
		対象：全教職員					
		評価：5段階評価					
		(回収目標90%)回収率					
		【総評】					
		全体を通して、昨年と同等(昨年度と比較し微増)の結果となった。本校の運営状況を建設的にとらえ、前向きに生徒指導に取り組める環境であると客観的に判断できる。ただし、平成28年度を含む3か年において平均が4以上(5段階)と高い評価は得ているものの各評価項目の数値変化が少なく、新たな取り組みの必要性も感じる。飛鳥未来高校責任者会議や各CP会議にて意見交換・情報共有を活発に行い広域通信制高校の規模を生かし常に生徒のための教育環境を改善し続けなければならない。今一度通信制高校のあり方・社会への貢献など踏まえた学校運営に努めなければならない。					